

魅力発信！えひめ農業

令和7年9月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興

※2 この動向は、9月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564

<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>

目次

目次	1
9月のトピックス5選	3
いちご定植講習会と花芽検鏡を実施	3
いちご農作業体験で農業の魅力を高校生へ発信	3
「中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会」を開催	4
南予地域を支える農業人材育成事業に係る経営発展交流会の開催	4
未来につなぐ西宇和スマート農業フォーラム 2025 開催	5
えひめ農業	6
東予地方局 地域農業育成室	6
新規就農者がスマート農業や栽培技術を学ぶ講習会を開催	6
青年農業者の研修会を開催	6
地域でスクミリンゴガイ対策を考える	7
産直市出荷者確保に向け市民向け野菜栽培講習会を開催	7
農福連携で里芋収穫の労働力確保を図る	8
再編集落営農法人が若手職員雇用による新たな経営計画を発表	8
「東予で農業ボランティア」活動始める	9
東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	9
やまのいも産地の維持・活性化に向け先進事例調査を実施	9
茶の消費拡大に向け「食べるお茶」の商品化を検討	10
青年農業者が生産性の高いかんきつ栽培技術について先進地事例調査を実施	10
さくらひめ四国中央会が川之江北中学校で出前授業	11
今治支局 地域農業育成室	11
管内栽培者を対象とした「紅プリンセス」の秋季以降の管理指導	11
さといも新增殖法の収量調査を実施	12
若手女性農業者研修会を開催	12
今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	13
第2回低コスト簡易防鳥ネット設置研修会を開催	13
いわぎレモンの安定生産指導	13
農作業軽減に向けた農業用ドローン実演会	14
今治支局 産地戦略推進室	14
花木の挿し木講習会を開催	14
遮光資材による高温対策の効果を検証	15
しまなみ特産オリーブの魅力を情報番組でPR	15
中予地方局 地域農業育成室	16
女性農業者が農業用ドローンについて学ぶ	16
いちご花芽検鏡技術の習得支援による指導人材の育成	16
研修生が農業機械の安全使用等について学ぶ	17

女性農業者が地元特産品を用いたオリジナルレシピを学ぶ	17
女性農業者がエコレモンを通じた地域振興を学ぶ	18
中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	18
女性農業者の多彩な能力の発揮を支援	18
女性認定農業者が修学旅行生の受入事例を講師自作の紙芝居で学ぶ	19
中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	19
番組で久万高原町のトマト栽培を紹介	19
収穫期を迎えた雑穀ほ場を専門家と巡回	20
中予地方局 産地戦略推進室	20
そらまめ栽培講習会を開催	20
南予地方局 地域農業育成室	21
南予地区のえひめ農林水産アンバサダー・レポーター交流会を開催	21
集落ぐるみの鳥獣害防止対策研修会を開催	21
南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	22
就農研修の充実を目指して	22
南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	22
青年農業者を対象に柑橘ドローン防除実演会を開催	22
南予地方局 産地戦略推進室	23
梅の夏季管理の重要性を再確認！	23
八幡浜支局 地域農業育成室	23
農業者が直面するリスクを共有	23
八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	24
難防除病害対策に向けてきゅうり天敵実証ほを設置	24
青年農業者による「いもたき」文化の継承活動を支援	24
八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	25
子ども食堂で郷土料理を！	25
西予で鳥獣害対策セミナーを開催	25
八幡浜支局 産地戦略推進室	26
青ねぎの夏季高温対策を検証	26
農産園芸課 高度普及推進グループ	26
いちご花芽検鏡講習会の開催	26

9月のトピックス5選

標 題	いちご定植講習会と花芽検鏡を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月29日、9月2日、10日	場所	西条市神戸・丹原、新居浜市金栄、四国中央市中之庄	
指導対象	いちご生産者（延べ19人）	連携機関	JA（えひめ未来、東予園芸、うま）	
普及指導内容	○9月はいちごの定植シーズンとなることから、定植後の栽培管理手法に関する講習会を開催し、併せて適期定植を促すために花芽検鏡※を実施した。 ○昨年度は高温の影響で花芽の形成が遅れ、花芽検鏡をせずに定植した農家を中心に、収穫開始が単価の高い年内に間に合わず、単価の下がる1月以降に遅延するなど大きな影響があったことから、花芽検鏡による適期定植の重要性を呼びかけた。 ○さらに、今年は9月以降も高温が予想されたことから、外気導入や寒冷紗の設置など、高温対策を十分に講じるよう指導した。			
結果と今後	○生産者からは、「今までとは気候が違うことを肝に銘じて、定植後管理をしていきたい」「適期定植をしてクリスマスまでに収穫を間に合わせたい」との声が聞かれた。 ○今年度は220苗以上の花芽検鏡を実施し、花芽の形成は、高温の影響により例年より1週間程度遅延する傾向が見られた。 ○今後は、個別巡回を通じて定植後の栽培管理の指導を行っていく。			



講習会の様子



花芽検鏡の様子

花芽検鏡
いちご苗に花芽が形成されているかを確認するために、実体顕微鏡で生長点を観察する作業。
花芽形成前に定植すると、収穫の開始が大幅に遅延するため適期定植の判断に欠かさない。



標 題	いちご農作業体験で農業の魅力を高校生へ発信		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和 7 年 9 月 25 日	場所	今治市中寺	
指導対象	県立今治南高等学校 生徒（15 人）	連携機関	県立今治南高等学校、今治 CATV、農事組合法人サポート中寺	
普及指導内容	○県立今治南高校園芸クリエイト科生徒を対象に、農作業を学ぶ機会を通じて農業への関心を高めることを目的にいちご栽培農作業体験（定植作業）を開催した。 ○当室からいちご栽培について、また、生産者から苗づくりや定植作業のポイントを説明した後、実際に定植作業を体験した。			
結果と今後	○高校で栽培していないいちご栽培を見て、聞いて、体験したことにより農業へ興味が湧いた生徒もいた。 ○今後は、12 月上旬に摘果等の管理作業、1 月下旬に収穫作業を予定しており、これらの様子は、今治 CATV が 30 分程度に編集し地域情報チャンネルで放送予定。			
 苗づくりについて説明  定植作業のポイントを学ぶ  指導を受け定植作業を実施				

標 題	「中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会」を開催		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月11日	場所	松山市下難波、北条辻	
指導対象	中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム（29人）下難波地区基盤整備受益農家（8人）	連携機関	JA えひめ中央、JA 松山市、松山市、砥部町、農村整備第一・二課、農林水産研究所、日本 DR システム（株）	
普及指導内容	○中予管内におけるかんきつ園地の再編整備や早期成園化・省力化技術等の導入を推進するため、「中予地区柑橘農業復興・再編ワーキングチーム会」を開催。 ○現地研修では、「DJI 社製ドローン T25」を用いて「ヘアリーベッチ」のは種を実演したほか、同園地で問題となっている野ウサギの食害対策について説明。 ○室内検討会では、地方局予算で実施している基盤整備園での緑肥栽培の実証結果（生育状況、土壌流亡防止効果）や、かんきつ園地の再編整備の状況等について情報共有を図った。			
結果と今後	○ドローンによるは種は、10a 当たり約2分30秒と、手散布（60分/人・10a）に比べて作業時間が大幅に短縮することを確認。 ○今後は、秋まき緑肥作物の実証を管内5地区計365a で実施するとともに、基盤整備園の土壌保全について検証する予定。			







左：緑肥作物のドローンは種の実演

中央：野ウサギによる食害事例

右：室内検討会

導 台	南予地域を支える農業人材育成事業に係る経営発展交流会の開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月17日	場所	南予地方局	
指導対象	新規就農者、認定農業者（14人）	連携機関	宇和島市、松野町、愛南町、日本政策金融公庫	
普及指導内容	○雇用を受入れ、次代の担い手を創出する農業人材の育成に取り組んでおり、雇用対策や労務をテーマとした研修と交流会を実施した。 ○事例発表2件「農業求人サイトによる雇用受入事例」「外国人労働者を活用した雇用事例」のほか、社会保険労務士が「農家の労務管理について」講演した。			
結果と今後	○雇用に対して関心の高い参加者から、採用時の注意点や業務指示する際の注意点、人件費の考え方等への質問や、経営の悩みについて積極的に意見が交わされた。 ○今後は、規模拡大及び法人化を希望する農業者に対し、専門家の力も借りながら支援していく。			



左： 交流会での意見交換

右： 研修会の状況

標 題	未来につなぐ西宇和スマート農業フォーラム 2025 開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年9月10日	場所	八幡浜市五反田、八幡浜支局	
指導対象	管内農業者、関係機関職員（約100人）	連携機関	みかん研究所	
普及指導内容	○当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会は、農業用ドローンや環境計測装置等のスマート農業技術の普及を図ることを目的に、標記フォーラムを開催した。 ○フォーラムでは、①専門業者による最新型の農業用ドローンによる農薬・肥料散布の実演及び講演、②当室の普及指導員と篤農家の黒田伊智男氏による環境計測装置の観測データ活用事例の発表、③アシストスーツの試着体験 等を実施した。			
結果と今後	○農業用ドローンについては、登録農薬の拡大や機体の性能向上により生産者等の関心が高まりつつあり、活発な質疑応答が交わされた。 ○事例発表をした黒田氏は連年高品質安定生産を実現している有名な篤農家であり、参加者はその技術を学ぼうと熱心にメモを取っていた。 ○今後も実証等を継続し、投資効果も見極めながら、スマート農業技術の普及を目指す。			







左：農業用ドローンのデモ飛行
中：アシストスーツ試着体験
右：観測データの活用事例発表

えひめ農業

標 題	新規就農者がスマート農業や栽培技術を学ぶ講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月11日	場所	ヤンマー西条中央、現地ほ場（西条市内各地）	
指導対象	新規就農者、青年農業者等（11人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA周桑	
普及指導内容	○新規就農者や青年農業者が、栽培技術や知識を学ぶ第4回講座として、スマート農業や高収益を上げる生産者から栽培技術等を学ぶ現地講習会を開催した。 ○講習会では、農機具メーカーから最新のスマート農機について説明を受けるとともに、農業指導士2人からは、30品目以上の野菜類を周年出荷するための栽培技術や、都市部の顧客に高単価でかんきつを直販するための生産技術やその販売戦略等について説明を受けた。			
結果と今後	○出席者からは、夏場の異常高温に対処するためのハウスの管理技術等についての質問が挙がり、栽培に対する向上心の高さが伺えた。 ○次回10月の講座では、花木類を施設内で周年出荷する農業者からその生産技術等を学ぶ研修を予定しており、今後も新規就農者や青年農業者の活動を支援していく。			
 スマート農機の紹介  野菜の周年生産技術の説明  施設せとかの販売について説明				

標 題	青年農業者の研修会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月16日	場所	西条市丹原町田野	
指導対象	青年農業者（30人）	連携機関	西条市、大洲市、中予地方局地域農業育成室	
普及指導内容	○西条市青年農業者協議会が、大洲市、松山市の青年組織と合同で、観光農園における取り組みやさといもの大規模栽培について学ぶ現地研修会を開催し、当室も運営に協力した。 ○当室から、観光農園では、「太秋」のジョイント栽培技術や、ぶどうの観光農園を運営するポイントについて、さといもほ場では、機械化一貫体系の構築による作付面積拡大について説明するとともに、視察先農家が、大きな種芋が植えつけられるよう改造された植付機やマルチロータリーを装着したトラクターの実演を行った。			
結果と今後	○参加者からは、観光農園のメリット・デメリットや、さといもほ場の排水性に合わせた畝づくり等について多くの質問があり、活発な意見交換が行われた。 ○同協議会では、今後も他地区と連携した研修会の開催等を通して青年農業者の育成を図ることとしており、当室も引き続き活動を支援していく。			
 柿ほ場の見学  観光農園について説明  さといも定植作業の実演				

標 題	地域でスクミリングガイ対策を考える		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月18日	場所	新居浜市垣生公民館	
指導対象	新居浜市垣生地区水稻栽培者 (18人)	連携 機関	JA えひめ未来新居浜経済センター	
普及指導 内容	○新居浜市垣生地区では、数年前からスクミリングガイの水田への侵入が見られるようになり、本年度食害が多発していたことから、防除対策検討会が開催された。 ○検討会では薬剤防除のほか、冬季の耕起や水路を掃除し通水せず乾燥させること等の物理的防除法を記載した防除指針を配布するとともに、他の淡水巻貝との違いや水田で水稻を食害するのはスクミリングガイであること、特に田植え後1か月間は薬剤防除と浅水管理により、被害を抑えられることを説明した。			
結果と 今後	○参加者から、生息の拡大や水域に関する情報提供があったことから、生息地において春の水路清掃に加え、低温になる11月にも泥上げ等を行うこととなった。 ○市内におけるスクミリングガイによる被害は、現時点では垣生地区に限られていることから地区内の駆除を徹底するとともに、関係機関と協力しながら他の地域への生息拡大の防止に努める。			

		
スクミリングガイ対策の説明	地域内の生息場所の確認	スクミリングガイ防除指針

標 題	産直市出荷者確保に向け市民向け野菜栽培講習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月9日		場所	JA えひめ新居浜経済センター
指導対象	産直市出荷者（33人）		連携機関	JA えひめ未来、新居浜市
普及指導内容	○新居浜市内中心部に来春リニューアルオープンする直売所「四季菜広場」の出荷品目の充実と直売所への出荷者を確保、育成するため、一般市民を対象とした秋冬野菜栽培講習会を開催した。 ○講習会では、たまねぎやブロッコリー、キャベツ等の栽培管理を説明するとともに、直売所への出荷の意向や個別指導の要望等を把握するためのアンケートを実施した。			
結果と今後	○参加者からは、たまねぎが抽苔してねぎ坊主ができる原因や、ブロッコリーの育苗がうまくいかない理由などの質問が数多くあった。 ○アンケートでは、直売所への出荷に意欲的な回答も多く、今後、個別指導を希望する生産者には現地での栽培指導を実施するなどして直売所の品揃えの充実や生産者の育成を図る。			



市民向け野菜栽培講習会



講習会に参加した受講者

育て方のコツ

◎水やりは1回の量を多く、回数は少なめに
根付いてからは毎日水をやる必要はなく、土の表面がしっかり乾いてから行う。乾燥を嫌うが、多湿すぎても病害にかかりやすくなる。

◎追肥の量とタイミングがおいしさに直結
元肥 2/3
追肥 1/3 (2回に分けて) ①定植して1週間～10日頃
②2週間～20日頃

◎外葉が大きくなる＝球が大きくなる
日当たりの良い場所で育てる、株間をしっかりと確保する



追肥量(全体10㎡あたりの分量)

キャップ	250～300g
リットル	200～250g
カリ	250～300g

※土壌に依存するが、
3.12g/L～3.75g/L(10㎡あたり)です。

野菜栽培講習会の資料

標 題		農福連携で里芋収穫の労働力確保を図る		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日		令和 7 年 9 月 16 日	場所	JA 周桑営農管理研修センター	
指導対象		里芋栽培農家（5 法人、9 戸） B 型福祉事業所（10 事業所）	連携 機関	JA 周桑	
普及指導 内容		○農福連携による労働力確保を推進するため、管内の福祉事業所と JA 周桑里芋部会員を対象としたマッチング説明会を開催した。 ○説明会には、過去最高となる福祉事業所 10 社と集落営農法人 5 法人を含む 14 人の農家が参加し、作業支援までの流れや注意点、本年度の利用料金の値上げ等を説明した後、福祉事業所と生産者との間で作業の時期や必要とされる人員等が話し合われた。			
結果と 今後		○管内における農福連携は、平成 30 年のマッチング開始から着実に利用者が増えつつあり、継続した取組みになるよう、引き続き生産現場での課題解決等に努める。 ○また、利用者の拡大やさといもの作付け拡大等により不足する労働力については、局予算事業「東予でボランティア」等各種ボランティア制度の活用について関係機関と協議し推進する。			
					
複数の事業所で共同作業		担当事業所との顔合わせ		注意点を農家に周知	

標 題	再編集集落営農法人が若手職員雇用による新たな経営計画を発表		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月25日	場所	JA 周桑旧石根支所	
指導対象	(株) あぐりサポートいわね	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○集落営農法人（株）あぐりサポートいわねは、総会において臨時雇用していた若手2人を正式雇用することを決定し、若手職員4人が担当する1作目での役割分担や、高収益となっているさといもの栽培面積の拡大等が決定された。 ○当室は、これまで同法人に対し、下部組織の合併や経営の多角化等を推進するとともに、国の就農支援事業の認証研修機関となっている下部組織と地域農業を担う若手人材の育成等についても支援してきた。			
結果と今後	○総会では、あぐりサポートいわね内で若手職員が順調に育成されていることや、担当する若手職員からもさといもの大規模栽培に伴う機械化一貫体系の構築により、収益力の向上が図られていること等が説明された。 ○管内の集落法人では、従業員の高齢化等が進む中、新たな担い手の確保育成が課題となっていることから、同法人の若手職員の育成の手法を参考に、引き続き管内の集落法人等の経営継承や経営強化を支援する。			
 若手職員による生育状況確認  運営課題についての話し合い  若手職員からの方針説明				

標 題	「東予で農業ボランティア」活動始める		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和7年9月9日～29日	場所	西条市内各地	
指導対象	農業ボランティア利用希望者（35人）	連携機関	JA 周桑、JA えひめ未来、西条産業情報支援センター	
普及指導内容	○東予地区では、令和6年度から農業労働力の確保及び農業の魅力発信のため、局予算を利用し「デイワーク」アプリと地域ポイントを活用した有償ボランティアの仕組みを構築しており、昨年度は西条市で実施し、16戸の農家が登録して活用した。 ○今年度はボランティア募集を9月16日から開始し、西条市内での取組みをさらに拡大するため、農家及びボランティア向けの説明会を計4回実施した。 ○早速マッチングが成立した農家には新聞取材があり、当課からもPRを行った。			
結果と今後	○説明会では、多くの農家から募集の工夫など活発な質問があり、関心の高さが伺えた。登録希望者へのアプリ設定も支援し、新たに9人の農家が登録した。 ○昨年から登録した農家では、今年は面積拡大させるなど、当取組に期待を寄せている。 ○今年度は今治市でも実施することとしており、活動の横展開を図ることとしている。			
 作業をするボランティア  取材を受けるさとも農家  地域ポイントをスマートフォンで受け取り				

標 題	やまのいも産地の維持・活性化に向け先進事例調査を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年9月29日	場所	兵庫県丹波篠山市（JA 丹波ささやま城東八上支店及び現地ほ場）	
指導対象	—	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○やまのいも栽培技術の高度化や省力化を図るため、JA うま担当者と兵庫県丹波篠山市の取組事例を調査した。 ○視察先では、JA・普及・市の各担当者から、やまのいもの生産や販売状況、生産者支援策等に関する説明を受け、意見交換後、現地栽培ほ場で生産者から状況等について聞き取った。			
結果と今後	○同市では、デジタル技術を活用しスマートフォンで土壌水分が確認できる土壌水分計の設置や、畝間の雑草管理の省力化に有効な資材の活用状況等を確認した。 ○また、新規栽培者を対象とし技術面をサポートする山の芋スクール（年10回）の開催や、市を挙げた山の芋フェアの開催など、多岐にわたる支援を行っていた。 ○今回の調査結果を参考にしながら、管内のやまのいも産地の維持・活性化に向け、新たな支援策の検討や技術指導を行っていく。			
  左：スクール生が管理する栽培ほ場 右：生産者から栽培状況を聞き取る職員				

標 題	茶の消費拡大に向け「食べるお茶」の商品化を検討		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年9月19日	場所	伊予市市場	
指導対象	－	連携機関	株式会社オカベ、JA うま	
普及指導内容	○茶の需要はペットボトル飲料の拡大や冠婚葬祭の簡素化により消費が落ち込んでいることから、無農薬栽培の利点を生かした商品開発を検討してきた。 ○指導班はJA、市と協議し、「食べるお茶」をコンセプトにOEMで商品開発に取り組むことに意識統一し、営業本部の仲介で、株式会社オカベと面談を実施した。 ○指導班は商品開発のビジョンを、JA は茶のこだわりや加工依頼する茶葉の状況についてオカベの担当者に説明し、食品開発のプロの技術を生かした連携を依頼した。			
結果と今後	○オカベの担当者は、茶葉を口に含んだり、大きさや色を確認しながら、ふりかけやお茶漬けのほか、自社製品への茶の添加など、「食べるお茶」6商品の提案があった。 ○試作品が完成した後は、具体的な開発商品の決定や販路の検討、補助事業の導入等について、関係機関でさらに協議を進める予定。			
  左：無農薬栽培の茶葉 右：一番茶の収穫中の茶園				

標 題	青年農業者が生産性の高いかんきつ栽培技術について先進地事例調査を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年9月19日	場所	(株)OCファーム、かんきつ基盤整備園（松山市下難波地区）	
指導対象	四国中央青年農業者連絡協議会 果樹部会員（4人）	連携機関	JA うま、中予地方局地域農業育成室	
普及指導内容	○今後の果樹営農体系等を研究するため、根域制限栽培技術や松山市下難波地区で取り組む基盤整備について、先進地事例調査を実施した。 ○（株）OCファームでは、水田転換園における根域制限技術を活用した「紅プリンセス」の施設栽培実証の状況について、基盤整備地区では、「せとか」等の生育及び栽培管理状況について担当者から説明を聞き、意見交換を行った。			
結果と今後	○視察後、部会員からは「せん定の仕方やかん水のタイミング等がよく理解できた」「園地の管理が行き届いており、改善に向けて良い刺激になった」などの意見があった。 ○今後、部会員が事例調査で得た栽培技術等を経営に活かせるよう、かんきつ栽培園地の定期的な巡回や指導を行っていく。			







紅プリンセスの根域制限栽培を調査

基盤整備地区のせとかの生育状況を確認

標 題	さくらひめ四国中央会が川之江北中学校で出前授業		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和7年9月8日	場所	四国中央市立川之江北中学校	
指導対象	さくらひめ四国中央会員（5人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	○さくらひめ四国中央会は、職業選択について考え始める中学生に対して、農業の魅力や作物の栽培技術等を紹介し、「食と農」に関心を高めることを目的とした出前授業を開催した。 ○出前授業は2回計画しており、今回はネギの調整作業（皮むき）と播種・定植作業の体験を中心に行った。			
結果と今後	○生徒からは「どのくらい乾いたらかん水したら良いのか」、「ポットは日向においても大丈夫か」等、今後の水管理や高温対策について質問があり、会員が回答をした。 ○11月には2回目の授業を予定しており、会員が栽培したねぎを用いて、市販のねぎやカットねぎとの食べ比べ等を行う計画。			





左：ねぎ皮むき調整作業の実演

右：ねぎの調整作業に挑戦する生徒

標 題	管内栽培者を対象とした「紅プリンセス」の 秋季以降の管理指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年9月24日	場所	今治市菊間町松尾、大西町山之内、宮脇	
指導対象	愛媛果試第48号生産者（42人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導 内容	○菊間町松尾と大西町山之内・宮脇の現地で、菊間、大西、乃万、富田地区の生産者を対象に、「紅プリンセス」の秋季以降の管理講習会を行った。 ○果実肥大に伴って枝梢の下垂が進んでいるので、状況に応じて枝吊りを実施すること、発生した秋梢は、かいよう病防除対策をしたうえで、次年度春季にせん除するよう指導した。			
結果と 今後	○今年度は、樹冠の横方向への拡大を第一目的として、摘果を遅らせ気味にして新梢の発生を促すよう指導したため、現在の果実はやや小玉傾向である。 ○今後は、樹相が良好になってきたことから、果実肥大の促進を重視した指導を行っていきたい。 ○引き続き関係機関と連携のうえ、県オリジナル品種の栽培を指導し安定生産を図っていく。			
 着果状況を確認  枝吊りを指導  次年度の結果母枝を確認 翌春のせん定方針を指導				

標 題	さといも新增殖法の収量調査を実施		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年9月25日	場所	今治市玉川、乃万、菊間	
指導対象	さといも栽培農家（6名）	連携機関	JA おちいまばり、農林水産研究所	
普及指導内容	○当室では、局予算事業を活用し、種芋の安定生産に向けて親芋の腋芽を利用する「親芋直接採取増殖法」の実証を行っている。 ○実証ほでは、親芋切片重量、腋芽の長さ、定植時期、エチレングスの効果について実証を行っており、定期的な生育調査の実施とともに、栽培適期に合わせた技術指導を実施した。			
結果と今後	○収量調査を実施した3ほ場では、従来の種芋栽培と比較し、親芋直接採取増殖法は子・孫・ひ孫芋の合計重量が重かった。 ○腋芽の長さ別の試験区では、親芋直接採取増殖法を用いて作成した腋芽の長さが短い苗の孫芋1個あたりの重量が、平均約18g重かった。 ○今後、当室では関係機関と共に、エチレングス処理技術により腋芽の過度な伸長の抑制および発芽数の増加に向けて予備試験を実施し、新增殖技術の確立を図っていく。			
 実証ほの状況確認  農家を交え掘り起こした収量調査サンプル (左：種芋栽培、右：親芋直接採取増殖法) 				

標 題	若手女性農業者研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和7年9月3日	場所	今治市玉川町 森のともだち農園	
指導対象	若手女性農業者（7人）	連携機関		
普及指導内容	○管内に点在する若手女性農業者のネットワーク化と情報共有による個々の課題解決を目的に開催。 ○グリーンツーリズム体験を行うメンバーの農園において、各自が生産する農産物を持ち寄りピザづくり体験と情報交換を行った後、身体と心を整えるストレッチなどの実習を行った。			
結果と今後	○2回目となった今回の研修会では、日々の農作業で感じている不安や困りごとを情報交換と実習で解決することができた。 ○参加者からは、「今の一番の課題は、労働力確保。情報交換でよいアドバイスをもらえた」、「研修・交流の場が今後も欲しい」等の声があった。 ○今後は継続した活動を行っていくために組織化に向けた検討を重ねる予定。			
				

標 題	第2回低コスト簡易防鳥ネット設置研修会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年9月29日		場所	今治市大三島町肥海
指導対象	かんきつ栽培農家（8人）		連携機関	—
普及指導内容	○かんきつ類の成熟期を迎える前に、新たに防鳥施設の整備希望があった園地（6a）において、立地条件に対応した仕様の低コスト簡易防鳥ネットの設置研修会を開催した。 ○平坦地で強風の影響の少ない立地条件を活かし、支柱径を細くして軽量のネットを用いることで、強度と防鳥効果を備えた低コスト防鳥施設を実現した。			
結果と今後	○参加者は、妨げとなる枝の除去や園地整備など事前準備の重要性を再認識しつつ、自主施工の実施手順について学んだ。 ○本仕様の耐久性について今後も調査を続けながら、立地条件に対応した低コスト簡易防鳥ネットの設置マニュアルを改良し、地域への導入を支援していく。			



低コスト簡易防鳥ネットの説明



設置作業の様子



完成した防鳥施設

標 題	いわぎレモンの安定生産指導		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年9月18日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在所	
指導対象	レモン生産者（15人） 関係者（6人）	連携機関	株式会社いわぎ物産センター	
普及指導内容	○「レモンの整枝技術」及び「いわぎレモンの今後と産地戦略」についてレモン生産者に対して講習指導した。			
結果と今後	○いわぎレモン生産の現状と課題を提起し、生産における整枝せん定の重要性を説明。 ○レモンの整枝せん定について、ハウス栽培と露地栽培の整枝方法について指導した。 ○将来、国産レモンの生産過剰が予想され、選ばれる産地としてのレモンの生産方針とライム類を含めた香酸かんきつの産地戦略を提案した。			





左：普及指導員による整枝方法の解説

右：ハウスレモンの整枝技術実証

標 題	農作業軽減に向けた農業用ドローン実演会		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和7年9月26日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在所	
指導対象	かんきつ生産者（4人）	連携 機関	（株）大信産業	
普及指導 内容	○かんきつ生産者に対して、農業用ドローンによるかんきつ園防除の作業体系や費用、最新の機体性能などを説明した。 ○散布実演を兼ねて、効果が不安視されている無人航空機での殺虫剤（ミカンハダニ）防除の実用性の実証試験を実施した。			
結果と 今後	○上島町の農業法人で農業用ドローンの導入計画がある。			



農業用ドローンの性能説明



防除作業の手順



薬剤散布の様子

標 題	花木の挿し木講習会を開催		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年9月16日、18日、22日	場所	JA おちいまばりしまなみ共選、伯方支店、日高集荷場	
指導対象	花木栽培者（30人）	連携機関	JA おちいまばり 東予地方局産地戦略推進室	
普及指導内容	○管内の花木生産においては、新規栽培者と補植・増反希望者の苗の確保や供給の遅延が課題となっていることから、主要品目の1つである「ピットスポラム」の挿し木講習会を昨年度に続き実施した。 ○講習会では、挿し穂準備から挿し木終了までの一連の流れを実演しながら、挿し穂の長さや基部に適した位置など、各作業のポイントについて説明した。			
結果と今後	○講習会の結果を踏まえ、新たに3人の生産者が挿し木に挑戦することになり、各生産者が挿し木を実施した後、JA指導員と定期的に巡回して育苗状況等を確認・指導する。 ○今後も挿し木実施生産者の確保と技術定着を図るため、JA指導員と連携しながら、定期的な講習会の開催や巡回指導の実施を通じた産地化を進めていく。			





左：講習会の実施状況
右：挿し木の実演

標 題		遮光資材による高温対策の効果を検証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和7年9月10日、18日、30日		場所	今治市朝倉、菊間、玉川地区	
指導対象	野菜生産者（5人）		連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○9月に入ってもハウス内温度が40℃を超える日が見られるなど、夏季の高温による野菜類への影響が懸念される中、ハウスへの遮光資材被覆による実証を進めている。 ○きゅうりの被覆後の影響について、現地調査と環境モニタリング機器から得た温度データを基に効果を検証し、指導を行った。				
結果と今後	○遮光によって葉焼け症状が減少し、苗の初期生育では葉数が増加し草丈も高くなるなどの生育促進効果が見られ、生産者からは「遮光で野菜が元気になっている。涼しいので私たちも作業がしやすい。」など生育や作業負荷の改善につながる意見があった。 ○一方、遮光により収穫量が減少した園地も見られており、日射を遮ることで光合成へ悪影響が出た可能性があるため、次年度は温度・日射量だけでなく生育ステージも考慮して遮光資材を撤去する時期を見極め、効果的な遮光資材の活用方法を検討する。				

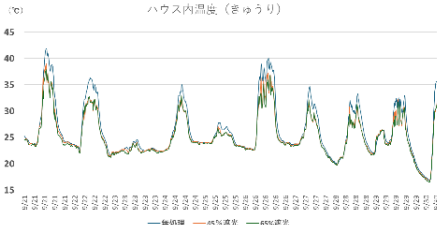


遮光資材を被覆したハウス



きゅうりの芽が焼け生育が遅れる

ハウス内温度(きゅうり)



環境モニタリング機器で
温度を確認

標 題	しまなみ特産オリーブの魅力を情報番組で PR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和 7 年 9 月 30 日		場所	今治市吉海
指導対象	ポパイズクラブ（3 人）		連携機関	食ブランドマーケティング課
普及指導内容	○しまなみ特産オリーブの認知度向上と魅力発信のため、テレビ愛媛の情報番組「ゆ～ばら！」の収録対応を支援。 ○当日は、ポパイズクラブ世話役の藤本夫妻が出演し、大島でオリーブを栽培するに至った経緯や園地の紹介、オリーブを使った料理（鯛めし、サラダ）の実演などの取組みを楽しいトークを交えながら魅力発信を行った。			
結果と今後	○今年は隔年結果の影響もなく、夏季のかん水を徹底するなど栽培管理に努めた結果、生育は順調で収量増が見込まれることから、熱を帯びた説明となった。 ○当日の様子は、番組の「えひめの食 盛り上げまっぷ」コーナーで 10 月に 2 週連続で放送される予定であり、当室は 11 月に開催予定のオリーブ祭り運営や「しまなみみんなのディッシュ」等での販促活動など、同クラブの活動強化や魅力発信を引き続き支援していく。			



オリーブ園等の紹介



オリーブを使った料理の実演



出演者・クラブ員で記念撮影

標 題	女性農業者が農業用ドローンについて学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月2日	場所	松山市興居島	
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」 (12人)	連携 機関	松田包装（株）、青井農園（株）	
普及指導 内容	○当室は、女性農業者の資質向上やスマート農機の導入を進めており、今回その一環として、農業用ドローンの研修会を実施した。 ○傾斜地でのかんきつ栽培におけるドローンの有効性や活用手法、導入農家視点での活用課題と対処法等についての講義に加えて、ドローン操作や機能性を体験してもらうため傾斜園地にて肥料散布の実演を行った。			
結果と 今後	○参加者からは、ドローン免許の取得方法等活用に向けた具体的な質問があったほか、「敷居の高いものという認識があったが、請負制度での活用を検討したい」との声があり、ドローンを身近に感じ、活用を検討する機会となった。 ○引き続き、当室では働きやすい作業に向けたスマート農機の普及や女性農業者のスキルアップのための支援に取り組む。			

【ドローン請負制度】
業者やドローン購入農家が、ドローン未導入農家園地へのドローン散布を請け負うもの。
依頼農家は、面積・作目・肥料等に応じた料金を支払う。



室内研修



傾斜園地でのドローン施肥実演

標 題	いちご花芽検鏡技術の習得支援による指導人材の育成		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月5～26日	場所	JA松山市営農センター・川上支所、JAえひめ中央東部営農支援センター	
指導対象	野菜担当普及員、JA指導員、全農えひめ野菜担当者（6人）	連携機関	JA松山市、JAえひめ中央、全農えひめ	
普及指導内容	○いちご栽培は、毎年、決まった時期に花芽分化をさせて、花芽分化確認後速やかに定植することが必要とされ、安定生産には花芽検鏡による指導は欠かせない。 ○花芽検鏡できる人材の育成に向け、管内のいちご生産者を対象とした花芽検鏡支援中、若手普及員とJA営農指導員等を対象に、ベテラン普及員が講師になり、いちご花芽検鏡技術習得支援の実習を実施。 ○実習では、花芽の未分化と肥厚初期の生育ステージの判別など、花芽分化の判別方法をはじめ、未展開葉の切除方法や花芽確認などの検鏡手法を学んだ。			
結果と今後	○若手普及員からは、「花芽が小さく手元の操作が難しい、慎重になりすぎて時間がかかる」などの意見があったが、ベテラン普及員と手順や分化ステージを確認しながら、花芽分化の検鏡技術を習得した。 ○管内のいちご生産者には、花芽検鏡による適期定植の指導を通じて、いちごの安定生産を支援していく。			
 検鏡で花芽を確認				

標 題	研修生が農業機械の安全使用等について学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月10日		場所	JA えひめ中央新規就農研修センター
指導対象	JA（松山市、えひめ中央）、松山市農業指導センターの就農研修生（34人）		連携機関	JA（松山市、JA えひめ中央）、松山市農業指導センター、えひめ農業未来カレッジ
普及指導内容	○管内の就農研修生を対象に、初となる合同での農業機械研修会を開催。 ○研修会では、えひめ農業未来カレッジ職員より、これからの時期に利用機会が増えるコンバインをはじめトラクタや刈払機における、メンテナンスや安全使用等について説明があった。 ○また、当室からドローンや AI 選果機等のスマート農業機械による省力化や画像解析等への活用について情報提供を行った。			
結果と今後	○研修生からは、「コンバインのメンテナンス方法が参考になった」、JA 担当者からは、「各機関の担当者や研修生間の意見交換が図れてよかった」との意見があった。 ○今後も関係機関と連携し、管内就農研修センターが合同で取り組める研修会等の開催を計画していく。			
 		左：コンバインのメンテナンス方法の説明 右：刈払機の安全使用の説明		

標 題	女性農業者が地元特産品を用いたオリジナルレシピを学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月16日		場所	松山市興居島船越集会所
指導対象	若手女性農業者組織「しとらす」（12人）		連携機関	（株）フードスタイル
普及指導内容	○女性農業者視点での加工・商品開発に向けたスキルアップため、多くのヒット商品開発に携わっている（株）フードスタイルの近藤路子氏を講師に招き、興居島を代表する特産品であるひじきを用いた講師考案オリジナルレシピの講習会を実施した。 ○講師から、アレンジ方法や調理上の留意点の説明を受けたうえで、オリジナルレシピの調理を行い、作成した料理を試食した。			
結果と今後	○会員は、ひじきの調理方法について固定概念があったものの、キンパやパンへの活用といった斬新なアレンジ方法を学ぶことができ、地元特産品の伝承や新たな利用手法の可能性を考えるきっかけとなった。 ○また、調理や試食を通じて、普段の生活や農業経営などについても活発に意見交換が行われ、会員相互の親交も深まり組織強化にもつながった。 ○今後も、女性農業者の活躍促進のため、地域性に応じた組織活動を支援していく。			
  		左：講師による説明 中央：試作したひじき料理 右：試食の様子		

標 題	女性農業者がエコレモンを通じた地域振興を学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月17日	場所	尾道市瀬戸田町	
指導対象	姫たちばな会員（10名）	連携機関	－	
普及指導内容	○中島地域の女性農業者組織「姫たちばな」が、レモン産地の状況や「せとだエコレモングループ」の加工品の開発・販売の取組みを研修。 ○同グループの研修では、化学合成農薬と化学肥料を5割削減した「皮まで食べられるレモン」の栽培状況と、100％果汁やレモンケーキ等のお菓子類の開発・販売活動について説明を受けた。 ○また、商店街ではレモン色の郵便ポストの設置や、今年6月にはレモネード専門店がオープンするなど、農業と観光を融合した地域振興の動きを目の当たりにした。			
結果と今後	○参加者は、エコレモンを加工原料として活用した、地域を挙げての活性化への取組みを学び、レモンに特化した地域振興策を自身の活動に活かせるよう認識を新たにした。 ○「姫たちばな」では、地域活性化の取組みの参考とするため、県内のマルシェの見学等を予定しており、当室としても、会員の更なる資質向上に向けて支援していく。			

【せとだエコレモングループ】
特別栽培でレモン生産に取り組むほか、地元の企業と連携してレモンを使った加工品の開発と販路確保を実現。その活動が認められて、令和5年度に第62回農林水産祭で天皇杯を受賞。





レモン園で説明を受ける会員

皮まで利用したレモネード

標 題	女性農業者の多彩な能力の発揮を支援		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和7年9月4、11、16日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	女性農業者組織「葉れるや」会員 (9人)	連携 機関	—	
普及指導 内容	○当班では女性農業者の定着を目的にスキルアップ支援の一環として、当地域主力品目「裸麦」の新たな活用と高付加価値化を検討するため、麦わら細工の研修会を開いた。 ○欧州や日本の伝統工芸である麦わら細工を体験し、農村生活や農耕行事に息づいて用いられている麦わらの価値を見直すとともに、利活用の基礎から技術を身につけようと、会員相互に励まし合って録画で復習する等、知識と技術の習得に努めた。			
結果と 今後	○会員は、麦わらの価値に関する理解を深め、活用方法の新たなヒントを得たほか、販売方法についても活発な意見が交わされ有意義な研修となった。 ○今後は、食用として裸麦の利用促進を図り、大人の食育にもつなげたいと、新たな加工の研究とその商品開発に向けた研修会を10月以降に開催予定。			



左：オンラインによる録画研修の開催

右：会員力作の麦わら細工の数々

標 題	女性認定農業者が修学旅行生の受入事例を講師自作の紙芝居で学ぶ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和 7 年 9 月 8 日	場所	内子町大瀬北	
指導対象	女性認定農業者組織「あいネットワーク」会員(10 人)	連携機関	—	
普及指導内容	○当班では女性農業者の定着を目的にスキルアップ支援の一環として、当組織の会員の資質向上と中山間地域の農業について見識を深めるため、内子町グリーンツーリズム協会の取組みについての研修会を開いた。 ○同協会の中心的な役割を担っている大程幸子氏(元農業指導士)を講師に、自作の紙芝居で都会からの修学旅行生の受入等について説明を受けるなど、農村の日常体験を通じた心身のリフレッシュ効果について学んだ。			
結果と今後	○会員は、ホームステイ受入のハードルの高さを感じていたが、何気ない日常が学生には貴重な経験になることを学んだ。また同年代の農業者の頑張っている話を聞けて元気が出たと好評であった。 ○今後は、会員が栽培管理しているほ場について、相互巡回のうえ、意見交換を行う研修会を 11 月に開催予定。			





左：紙芝居を使った説明

右：後継者(義娘)との交流

標 題	番組で久万高原町のトマト栽培を紹介		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年9月5日	場所	久万高原町明神地区	
指導対象	トマト生産者（1人）	連携機関	（株）愛媛CATV	
普及指導内容	○中予地方局農業振興課が愛媛CATVと連携して制作・放映している農産物PR番組「キラキラ農業！大好きえひめ」の撮影を実施した。 ○今回のテーマは、夏秋トマト栽培における「細霧冷房装置」として、若手普及職員がレポーターを務め、生産者のハウスで細霧冷房の仕組みや効果を中心に取材や撮影を行った。			
結果と今後	○品質の良いトマトを生産するための工夫や新たな取組みについて、説明原稿を工夫し、消費者に理解しやすい番組の制作につなげた。 ○今後も番組制作を通して、関係機関や生産者と連携し、中予地域の農業の特徴や魅力を発信する。			
【愛媛CATVと連携したPR番組】 平成30年からスタートし、令和7年10月から「地産地消でいただきます！」に番組を改変し、農産物PRに加え、料理を紹介するコーナーを追加し15分枠に拡大のうえ放映。				
				
		撮影現場		細霧冷房の稼働風景

標 題	収穫期を迎えた雑穀ほ場を専門家と巡回		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和7年9月12日		場所	久万高原町久万、畑野川
指導対象	雑穀生産者（2人）		連携 機関	県立上浮穴高校、久万高原町
普及指導 内容	○今年度より「久万高原ブランドづくり推進会議」にアドバイザーとして参画している（一社）日本雑穀協会の専門家2人と町内の雑穀栽培ほ場を巡回し、生産者とは県の栽培事例等をふまえた情報交換や栽培指導を行った。 ○あわせて、町内事業者へのアンケート結果に基づく雑穀商品・メニューの開発方針や雑穀のPR活動等についてアドバイザー及び上浮穴高校と協議を行った。			
結果と 今後	○今後、新規栽培者に対して収穫後の乾燥調製や加工の方法について指導を行い、道の駅等への出荷促進を図る。 ○上浮穴高校は地元商店街で高校生カフェに取り組む予定があることから、雑穀を使用したテイクアウトメニューの開発を検討する。			
  左：雑穀生産者と情報交換 右：雑穀メニュー開発等を協議				

標 題		そらまめ栽培講習会を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年8月27日、9月10日		場所	JA（えひめ中央南伊予経済センター・伊予中央支所、松山市北伊予支所・岡田支所）	
指導対象	そらまめ生産者（72戸）		連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、近年問題となっているそらまめの収量低下の原因究明や単収の向上に向けた取組みを実施している。 ○令和8年産そらまめの栽培開始にあたり、JA えひめ中央・JA 松山市と連携して栽培講習会を開催し、栽培管理のポイントを指導するとともに、同事業における取組内容の周知や近年の黄化症発生状況に関するアンケート調査を行った。				
結果と今後	○講習会では、生産者から、黄化症状の原因究明に合わせて、L莢や4月の出荷量を増加させる方法も検討し普及して欲しい等、期待の声が上がった。 ○アンケート調査については、60戸から回答が得られたことから、結果を取りまとめ、黄化症状の発生要因の考察に役立てる。 ○今後は、着莢期以降の地温上昇や大雨への対策技術の実証等を進めることとしており、引き続き、関係機関と連携しながら、そらまめ産地の維持・発展を目指す。				
 講習会の様子					

標 題	南予地区のえひめ農林水産アンバサダー・レポーター交流会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北・愛南農業指導班
年月日	令和 7 年 9 月 8 日	場所	南予地方局	
指導対象	南予地区のアンバサダー（3 人）、レポーター（1 人）	連携機関	－	
普及指導内容	○南予への移住や就農の契機となるような動画を SNS で配信してもらうことを目的に、動画再生回数を伸ばすためのキャプション設定や動画編集技術等についての研修を行うとともに、参加者による意見交換会を企画した。 ○若手普及指導員は、取材ネタ選定の参考にしてもらうため、自身が感じた南予の農業・農村の魅力を紹介した。			
結果と今後	○「10 月以降水稻の取材ネタがない」「女性農業者を取り上げたいが人数に限りがある」など課題もあるが、「前向きに取材・配信したい」との意見で一致した。 ○今後は、管内の取材対象や再生回数の多い動画の紹介なども行い、南予や農業の魅力発信ができるよう支援する。			
 交流会の様子 【えひめ農林水産アンバサダー・レポーター】 農林水産業のイメージアップを図るため、SNS 等を通じてその魅力を広く発信してもらう、地域で頑張っている従事者を県が委嘱				

標 題	集落ぐるみの鳥獣害防止対策研修会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和7年9月19日	場所	上光満集会所（宇和島市高光）	
指導対象	宇和島市認定農業者連絡協議会（13人）	連携機関	宇和島市、農林水産研究所	
普及指導内容	○当協議会は、鳥獣被害が急速に増加したことを受け、集落ぐるみの対策推進を目指した研修会を開催した。 ○農林水産研究所より、鳥獣害対策の基本を始め、集落での柵設置前に関係者が検討すべきことや施工上の注意点等を、普及指導員より愛南町での取組事例を聞いた後、上光満地区において平成24～26年に施工された侵入防止柵の状況を視察した。			
結果と今後	○現地研修では、地元農家の人海戦術でワイヤーメッシュを張った当時の苦労や維持管理の話を聞き、参加者は熱心に質疑を行った。 ○今後は認定農業者が中心となって集落ぐるみの対策が進むよう、後押ししていきたい。			



左：室内研修

右：宇和島市上光満地区の侵入防止柵の説明

標 題	就農研修の充実を目指して		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和7年9月3日、29日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	農業研修生・新規就農者（6人）	連携 機関	松野町、松野町農林公社、鬼北町、鬼北町農業公社、JA えひめ南	
普及指導 内容	○9月3日に就農研修検討会を開催し、就農研修生や新規就農者を対象にした講座内容について検討し、今年度はきゅうりやくり等の栽培技術や農業経営に関する講座を月1回のペースで実施することを申し合わせた。 ○9月29日には、鬼北地区の基幹品目であるくりを取り上げ、同指導班において講義と実習を行い、収穫やイガむき、選果方法について研修した。			
結果と 今後	○参加者は、くりの収穫期の管理や品質の見分け方などについて理解を深めるとともに、安定生産には防護柵設置などのイノシシ対策が必要不可欠なことを実感した。 ○今後も、就農研修生が農業技術や知識を習得し、スムーズな就農や早期の経営安定につなげられるよう講座を通して支援していく。			
 左：くりの収穫 右：選別方法の説明				

標 題	青年農業者を対象に柑橘ドローン防除実演会を開催		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和7年9月22日	場所	愛南町緑	
指導対象	愛南地区青年農業者協議会員（5人）	連携機関	—	
普及指導内容	○昨年度から河内晩柑のドローン防除実証に取り組んでおり、町内の青年農業者間でドローンに対する関心が高まっていることから、同協議会を対象に甘夏でのドローン防除実演会（AGRAS T50）を開催した。 ○今年度のドローン防除実証の途中成果について説明した後、実際にマンゼブ水和剤の散布を実演し、予め設置した感水紙で付着状況を参加者と確認した。			
結果と今後	○参加者からは「思っていたよりダウンウォッシュの勢いが強かった」「混用での散布効果が確認できれば導入したい」等の意見が聞かれた。 ○町内ではかんきつのドローン防除面積が増加しており、防除作業の大幅な省力化が期待されることから、同協議会は来年度のプロジェクト活動として実証に取り組むこととしたので、引き続き支援していく。			





左：ドローン防除の概要を説明

右：ドローンによる薬剤散布

標 題	梅の夏季管理の重要性を再確認！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和7年9月19日	場所	松野町延野々 松野町農林公社ほ場	
指導対象	梅生産者（3人）	連携機関	松野町梅振興会、松野町農林公社 鬼北農業指導班	
普及指導内容	○今年は例年並みの収量であったが、来年も安定した着果量を確保するため、夏季管理の重要性について説明しながら作業の実演を行った。 ○徒長枝のせん定で樹冠内部への採光を改善し、9月下旬に施肥を行うことで、翌年の充実した花芽確保に繋がることを説明し、害虫に起因する病害対策も指導した。			
結果と今後	○生産者から、果実のない時期の秋肥を疑問視する声も聞かれたが「花芽分化に繋がる樹体を健全に保つため、適正量の施肥が重要である」ということを説明することで、基本管理の重要性の再認識に繋がった。 ○今後は、園地巡回を通じて夏季管理を徹底するとともに、冬季には関係機関と連携して、青梅収穫や防除のかかり易さを見据えた低樹高せん定の実施を啓発していく。			
  左：安定着果を目指して夏季管理の徹底を指導 右：カイガラムシ類の発生に起因するこやく病				

標 題	農業者が直面するリスクを共有		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和7年9月17日	場所	八幡浜支局	
指導対象	八西地区認定農業者等協議会・八西地区青年農業者連絡協議会・八西生活研究協議会（33人）	連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導内容	○当室が活動を支援している3組織は、地域における課題解決や産地の活性化を目的とした「八西農業者フォーラム2025」を共同開催した。 ○現場で直面しているリスク対策として、異常気象や鳥獣害対策に必要な知識習得の要望があったことから、それぞれの専門家を講師に招き、現状把握と有効な対策について学ぶための講演を実施した。			
結果と今後	○参加した組織会員等は、地域が一丸となり鳥獣害対策に取り組む必要性を再認識するなどリスクの実態把握と理解を深めた。 ○また「改めて危機感を持った」「現場ですぐに活用できるヒントを得られた」といった声も寄せられ、関心の高さと対策推進への意欲が感じられた。 ○今後もかんきつ産地の維持・発展のため、現場が抱える課題の解決に必要なニーズを汲み取り、農業者自らが解決に向き合えるための組織活動を仕組んでいく。			
  左:フォーラムの開会 右:鳥獣害対策についての発表				

標 題	難防除病害対策に向けてきゅうり天敵実証ほを設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年9月2日～	場所	大洲市東大洲	
指導対象	実証農業者（1人）	連携機関	JA 愛媛たいき、株式会社アグリセクト、病虫害防除所、農産園芸課	
普及指導内容	○管内の抑制きゅうりは、近年、高温等の影響によりアザミウマ類の発生増加等に伴う「きゅうり黄化えそ病」防除対策が課題となっている。 ○このため当班は、関係機関やメーカー等と連携し、有効な対策として、天敵（タバコカスミカメ及びスワルスキーカブリダニ）を放飼する実証ほ（5a）を設置し、効果を検証することとした。 ○実証協力農業者には、効果的な使用方法について予め理解を深めてもらうため、天敵の生態や放飼手順、農薬使用の注意点等を説明した。			
結果と今後	○今後、1週間に1回、粘着トラップ等を活用して天敵及び害虫の発生状況を調査、発病率低下等を確認し、農薬散布等の省力化および高品質生産に向けた産地への技術導入を目指す。			
  左：天敵放飼 右：予察用の粘着トラップ				

標 題	青年農業者による「いもたき」文化の継承活動を支援		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和7年9月27日	場所	肱川緑地（大洲市）	
指導対象	大洲市青年農業者協議会（8人）	連携機関	大洲市役所、JA 愛媛たいき 県立大洲農業高校	
普及指導内容	○同協議会（通称：アグルビト）は、肱川の河原で行われる伝統行事「いもたき」をPRし、次世代へ伝えたいと、“いもたきな夜”と題するイベントを主催し、会員が生産した食材を使った「いもたき」等を販売した。 ○当班は、会員に対し、会場での消費者交流や販売時の衛生管理などの留意点について指導するとともに、来場者への積極的なPRの場の創出につながるよう支援した。			
結果と今後	○イベントは、用意した「いもたき」288食が完売するなど盛況で、会員は来場者と積極的な交流を図り、「大洲のいもたき」の歴史や秋の味覚をPRできた。 ○アグルビトが伝統ある食文化の継承活動に意欲を見せていることから、当班は、引き続き活動を支援し、地域をけん引する青年農業者として育成していく。			
  				
販売準備 芋炊きの提供を行うアグルビト 提供した芋炊き				

標 題	子ども食堂で郷土料理を！		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年9月11日	場所	県立宇和高校	
指導対象	西予生活研究協議会（8人） 県立宇和高校（18人）	連携 機関	県立宇和高校	
普及指導 内容	○当班は、県立宇和高校から子ども食堂開設に関する相談を受けたことから、生活研究協議会が行う郷土料理の伝承活動を兼ね、講習会を開催した。 ○同校普通科のフードデザインを選択する生徒等を対象に、ご飯類、汁物のほか、同校作製の河内晩柑マーマレードを使ったまんじゅう等計9種の料理について講習した。			
結果と 今後	○同校は、地元の小学校児童を対象に子ども食堂の開設を11月に予定しており、今回の講習内容はメニューのひとつとして採用される予定のため、レシピを提供した。 ○当班は、今回の郷土料理の伝承のように、組織活動が地域貢献につながる等、会員が意義と価値を見出せるよう、今後も同協議会の活動を支援していく。			
  左：講習の様子 右：集合写真				

標 題	西予で鳥獣害対策セミナーを開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和7年9月26日	場所	宇和地域づくり活動センター	
指導対象	西予青年農業者連絡協議会、西予認定農業者協議会、西予生活研究協議会、県立宇和高校（86人）	連携機関	西予市、内子町	
普及指導内容	○西予市の青年農業者組織と認定農業者組織が共同で主催する西予地区鳥獣害対策セミナーの開催を支援した。 ○基調講演では県外の専門家が“相手（獣）を知る”ことを念頭に、防護柵の効果的な設置法や足跡等から得られるヒント等について、ユーモアを交えながら講演した。 ○現地事例発表では、内子町のえひめ地域鳥獣管理専門員や野村町青年農業者協議会員、当室職員から、それぞれの取組事例と情報提供を行った。			
結果と今後	○参加者からは「従来の考え方を改めていく必要がある」との感想が出るなど、現在取り組んでいる鳥獣害対策を見直すきっかけとなるとともに、地域住民が一体となった取組の重要性や獣の生態を理解する意識の醸成につながった。 ○当班では、今後も講習会等を通して鳥獣害対策の普及推進を図り、西予市と連携して、農業者が地域ぐるみで有効な対策に取り組めるよう支援していく。			
 井上雅央氏の講演の様子 (右端が井上氏)				

標 題	青ねぎの夏季高温対策を検証		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和7年9月29日	場所	西予市野村町	
指導対象	(株) ノムランド	連携機関	—	
普及指導内容	○近年、夏季の高温によって青ねぎの生育が著しく遅延し、品質も低下するため、対策が課題となっている。 ○当室では、耐暑性品種6品種とシルバーマルチについて実証ほを設置し、収量調査を実施した。			
結果と今後	○シルバーマルチは、慣行の黒マルチと比較して生育が良好で収量が約8割多く、高い効果がみられたものの、9月中の生育は高温乾燥の影響で、いずれも大きく停滞した。 ○耐暑性品種は、一部の品種で慣行より生育が良好であったものの、高温乾燥等の影響で欠株が多発する品種もあった。 ○今後、10月中旬に耐暑性品種の収量調査を行い、その結果を踏まえ来年度の高温対策について検討する。			





左：シルバーマルチ（上）と
黒マルチ〔慣行〕（下）

右：耐暑性品種の生育調査

標 題	いちご花芽検鏡講習会の開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和7年9月9日	場所	農林水産研究所	
指導対象	若手普及指導員等（16人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	○若手普及指導員は、現場経験年数が少なく、いちごの花芽検鏡技術を習得できていないため、実技を交えた花芽検鏡講習会を開催した。 ○ベテラン職員2名が、前処理方法や顕微鏡を使って未展開葉の除去方法、花芽形成確認のポイントなどを手ほどきした。			
結果と今後	○若手普及員からは、「今年から花芽検鏡を実施するため、実習の機会があり安心した」「実際に自分がやりながら指導してもらったので、コツがつかめた」との声が聞かれた。 ○今後も関係機関と連携し、若手普及員の技術力向上に取り組む。			



手順を説明



実習で分化状況を確認

【いちご花芽検鏡】

顕微鏡を使用し、いちご苗の葉を一枚ずつ取りながら、針で花芽までの葉をめくっていく作業で、花芽分化が確認できると定植可能となる。

定植時期や出蕾・開花・収穫の時期を予想する重要な技術。

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543